

特集
安里川を歩く

那覇の歴史と共に絶え間なく水が流れ続けている安里川。弁ヶ岳に源を発し、首里から市街地を流れ泊ふ頭から海へ注ぎます。

那覇市民なら誰でも一度は眺めたことがあるのではないだろうか。那覇市市制が施行されて今年で100年。市内の河川の中で、当時の姿にもっとも近いのが、この安里川です。今月号では、身近にありながらもなかなか知られていない安里川の魅力をお伝えします。

取材▼秘書広報課 0862・9942

琉球王国時代における安里川

那覇はかつて「浮島」と呼ばれる離れ島で、海にいくつかの小島が点在する地域でした。当時の安里一帯はほぼ安里川の河口域で、現在のゆいレール牧志駅近くまで内海でした（図「1700年頃的那覇」参照）。

安里川の河口だった泊港は、陸路・水路ともに交通の便が良かったため、13〜14世紀にかけて宮古・八重山・奄美大島などの船が出入りし、にぎわいを見せていました。泊港から入港した小舟は、松川の茶湯崎（ちやなぎさ）橋まで遡ってきたと言われています。

